

文教厚生常任委員会記録

日 時 令和7年8月26日（火曜日）13時30分～13時55分

場 所 議員控室

出席者 阿部委員長、磯野副委員長、平山委員、舟見委員、村上委員、村田議長
棟方健康支援課長、清水健康支援課主幹、佐々木保健係主査

オブザーバー 小寺議員、工藤議員、金木議員、逢坂議員

事務局 鈴木局長、嶋元係長

阿部委員長

それでは、時間となりましたので、ただいまから文教厚生常任委員会を開催いたします。

本日の調査案件につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種費用について調査したいと思います。

それでは、担当課より説明を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

1 新型コロナウイルスワクチン接種費用について

担当課説明

説明員 棟方健康支援課長

棟方健康支援課長 13:30～13:34

どうも、お疲れさまです。本日は、お忙しい中、貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。本日の議題は、新型コロナウイルスワクチンの接種費用についてということです。座ってご説明させていただきます。

それでは、あらかじめお配りしております資料を御覧ください。まず、1番目なのですが、令和7年度新型コロナワクチンの概要についてということでもありますけれども、新型コロナワクチンは皆さんご存じのように令和6年度から予防接種法上の定期接種ということで位置づけられまして、定期接種への移行期における激変緩和措置として国による新型コロナ定期接種ワクチン確保事業に対する助成事業というのが令和6年度は実施されておりました。これによって、令和6年度に市町村が実施する新型コロナウイルスに係る定期の予防接種につきましては接種1回当たり国から8,300円が助成されておりましたが、令和7年度からはこの助成は終了となるということでございます。

対象者は、昨年度と同様で定期接種のB類ということで65歳以上の方、あと60歳から64歳までの方で一定の基礎疾患を有する方ということで、インフルエンザや肺炎球菌と同様の扱いとなっております。

次のページを御覧いただきたいと思います。2番目で、新型コロナワクチンの費用負担についてということですが、下のところに表がありますが、令和6年度の定期接種における自己負担額は先ほども申しました国の助成が入ることによって標準的な接種費用は7,000円として積算されておりました、低所得者に関しては無料とするため総接種費用の3割が普通交付税措置されたということでございます。令和7年度におきましては、国の助成が終了しましたことから自己負担額、標準的な接種費用としては1万5,600円を標準として各自治体において検討することとされたということでありまして、低所得者に関する措置は継続予定となっております。この標準的な接種費用の金額の内訳につきましては、表に記載のとおりとなっております。

3番目の羽幌町の接種費用についてということでございますけれども、令和7年度の当初予算におきましては令和6年度同様に8,300円の国の助成があるものとして、自己負担は昨年度同様の3,000円ということで予算計上しておりましたが、4月になって国の助成の終了が発表されましたことから自己負担額の見直しが必要となったところでございます。当町におきましては、令和7年度より定期接種となった带状疱疹ワクチンにおいても接種費用の半分程度の自己負担を求めておりました、新型コロナワクチンにおいても同様に半分程度の自己負担を求めることとして、自己負担額を7,000円ということで設定いたしました。内訳につきましては、先ほどの標準的な接種費用が1万5,600円、自己負担が7,000円で町の助成が8,600円というようなことで積算をしております。

今後のスケジュールにつきましては、道立羽幌病院や両島の診療所と打合せをいたしまして、日程等が決定次第、町民の方に周知させていただきたいと考えております。

説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

阿部委員長

それでは、質疑に入りたいと思いますので、質問のある方は挙手にて。

— 主な協議内容等（質疑） — 13:35～13:55

平山委員 今ちょっと説明を受けて、国の助成がなくなったということで自己負担額が大幅に増額になったということなのですが、去年は3,000円、1人、個人負担ね。今年は、今年度はこの7,000円ということで、倍以上の負

担額になりますよね。それで、ここに書いてある带状疱疹ワクチンと同じような半分程度の自己負担となっていますけれども、この带状疱疹とコロナというものの自体が違うと思うのです。なぜそこに同じようにという考えに至ったのか、ちょっと説明ください。

棟方課長 国においても令和6年度からこのコロナワクチンは定期接種ということになって、インフルエンザなどと同じくB類指定ということで分類されておりまして、このB類指定というのは主に個人の予防に重点を置いているものでありまして、接種の努力義務もないというようなものでありますことから、他の予防接種と比べてコロナワクチンだけを手厚く補助するという状況にはないというふうに考えております。

平山委員 その説明の内容は分かります。ですけれども、この高齢者の対象のことなのですけれども、昨年度よりも倍以上の自己負担、そして高齢者になると負担額が大きいということは打ちたいなと思っても、なかなか打てないという人も出てくるのではないかなと思うのね。コロナというのもやはりほかの風邪とかインフルエンザとかとまたちょっと違うものがあって、もしそういう予防注射、接種をしないでうつったとか感染したとかとなったときに、後遺症の問題なんかありますよね。だから、そういうことから考えても高齢者がこれだけの負担をするということは、私は接種を受ける人が少なくなるのではないかなという、そういう思いがあるのです。担当課のその辺の考え方は。

棟方課長 確かにおっしゃるように、自己負担額が上がったら、それで打ちたいけれども、ちょっと考えてしまうという部分はなきにしもあらずかとは思っております。ただ、先ほども申しましたように国のほうでは、もうインフルエンザとかと同じ扱いだということになっておりますし、報道とかでもコロナがはやり始めた当初のような、かかったら、すぐもう命が危ないとか、そういうような状況ではないというところもございます。また、この接種1回当たり8,300円の助成が昨年度はあったものですから、自己負担額3,000円ということでできましたけれども、もうこの8,300円が丸々なくなるわけですから、単純にもうその分が打った人数分、町が持ち出しということになってしまいます。単純に予算額だけで

見ますと、この補助金で 664 万円見ていたものですから、その分の一般財源が増える形になります。皆様ご存じのように、町の財政的にも決して余裕があるというところではございませんで、その辺を理事者のほうにも相談して、ほかの予防接種が半分程度の負担を求めているということで、そことの均衡を図るということで今回のこの 7,000 円という金額を設定させていただきました。

平山委員 財源の問題は、いろいろ分かります。それで、今回このことでほかの自治体、管内の。どこが幾らというのは、それはもう出ているの、負担。

棟方課長 一応調査はしましたけれども、まだよその町村さんも決定したものではないというところでありますので、具体的な町村名と、あとそれが幾らというのはちょっと差し控えさせていただきますけれども、ただおおむね多いところは 6,000 円、7,000 円くらいのところが、そういうふうにな今のところ考えているところが多いのかなというような状況でございます。

平山委員 重々に分かるのですが、やっぱり 7,000 円というのはちょっと、一遍に 7,000 円というのはちょっと大きいなと思うのです。去年の負担額から考えたら、倍以上ですからね。だから、その辺ちょっと、もうちょっと私は考えていただきたいと思うのです。その辺、どうなのでしょう。

棟方課長 おっしゃることは重々分かるのですが、先ほども申しましたように、その 8,300 円が丸々町の持ち出しでないと昨年度と同じ金額にはならないというところで、町のほうでも丸々 8,300 円を上乗せということにはならないだろうというところで、先ほども申しましたけれども、ほかの予防接種においても半分程度の負担をいただいているというところで、あとコロナだけ特別にほかの指定と比べて手厚くというような状況ではないというふうな考えの下、こうやって設定させていただきましたので、そのところをご理解いただきたいなと思っております。

平山委員 全く私は理解できないのです。意味は分かるのですが、財源の問

題だというのは。ただ、もしこの7,000円の負担額で今年度するとしたら、去年は3,000円。その7,000円になったときに、接種を受ける人数というのかな。その辺をちょっと私は危惧するのであって、今は課長はご理解くださいということなのではけれども、一応理解します。私としては納得いかないけれども、言っていることは。

それで、私が思うのは、多分これコロナのワクチンというのは、もうずっと毎年続いていくと思うので、また来年度になったら接種を受ける数、人数とかを考えたときに、国もまたちょっと何かで考え変わるかもしれないけれども、法的な位置づけは普通の感染症の位置づけだから、そこが変わらないと話は変わらないと思うけれども、ただこの7,000円になったことで接種する人がかなり落ちたとか、人数が減ったとかとなったときに、そしてまた今度コロナが増えてきたとか、その現状を見て今後についてはちょっと考えていただきたいなど。まず要望です。

阿部委員長 答弁はいいですか。

平山委員 もう言ってもあれですから、いいです。

磯野副委員長 費用負担の中で、低所得者に関する措置は継続予定となっているのですが、これは継続しますではなくて予定ということは、国のほうの方針が定まっていないというふうにとったらいいか。

棟方課長 おっしゃるとおりで、助成はやめますというところははっきり出ているのですが、それ以降詳細というのはまだ来ていない状況ですが、ただ継続の見込みというような話がございましたので、そのとおりの説明させていただきました。

磯野副委員長 ということは、今後のスケジュールの中で日程が決定したときには、これも決定しているというふうに考えていいのですか。その低所得者に関しても。

棟方課長 もうすぐ多分国のほうからも、その辺につきましては通知が来るものと思っております。

磯野副委員長　今回は、この対象者が定期接種B類、65歳以上の方と限られていますけれども、基本的なことを聞くのですけれども、それ以外の65歳未満の方のワクチンのスケジュールとかというのは、また改めてということになるのですか。

棟方課長　それ以外の方につきましては任意接種ということですので、うちがスケジュールをどうのという話ではなくて、個人で病院さんのほうに行って確認していただいて、全額自己負担で打っていただくということになります。

磯野副委員長　この接種費用の部分からちょっと外れるのですけれども、以前はコロナの場合は国が発表して、今最近は発表はないのですけれども、町の中の話ですけれども、結構またはやってくるとか、そういう患者さんが出ていると。報道等を見ると、何か別な変異株みたいのが出てきている。その辺を担当課のほうでは何か捉えているのか。もし捉えているものがあれば、ちょっと教えていただきたいのですけれども。

棟方課長　今おっしゃった変異株のやつは、報道等で確認はしておりますけれども、羽幌町内というところでは特段これといった、その変異株がはやっているとか、そういうような話は特段聞こえてはきておりません。

磯野副委員長　以前は、コロナがはやっているときは皆さん注意、行政からも注意喚起とかは何度もしていると思うのですけれども、またこういうじわじわ、じわじわはやっている中で、今後も行政としては例えばもう一回、再度注意喚起をする。ふだんもしているのでしょうけれども、改めてするだとか、その辺の考えは。

棟方課長　町内の状況を見まして、必要があると判断すれば、そのような注意喚起ですとかは状況によってしていきたいと考えております。

村田議長　先ほどちょっと聞き漏らしたので、予定として羽幌町として何名ぐらいの方のワクチンを接種する予算的というか、予定としてはどのぐらいの人数になっているのか。ちょっと先ほど言ったのをお願いします。

棟方課長 一応、当初予算上は800人ということで予算計上をさせていただいております。

村田議長 自分も詳しくないのですが、800人予定をしているから、多分800人分最初からワクチンを入れてということではないと思うのですが、期間的にはこれから期間はあると思うのですが、段階的に何百人か入れていって処理していくのか。それとも、どういう形でこのワクチンを調達して、打って予防していくのか。そこら辺のもし流れが分かっていたら、ちょっと教えてもらえれば。

棟方課長 インフルエンザとかと同じように日付を設定して、それで募集をかけて希望者を募って行ってするような形ですので、あとその申込みの状況を見てワクチンも発注してというような形になろうかと思います。

村田議長 そうしたら、前もって予定とか、このぐらいとかというワクチンの数を用意しておかなくても、申込みをされてから発注するので、ワクチンは間に合うということかな。どうしてかといったら、よく何年度でも、去年なんかでも利用されないで廃棄したとかということを聞くので、どういう形で無駄なく接種しているのか。そこら辺は、先ほど平山委員が言った自己負担が多いと、では去年打ったけれども、今年はやめようかなというようなこともあり得ないわけではないので、ちょっとそこら辺が気になったものだから質問してみたので、そこら辺ちょっと分かれば。

棟方課長 ワクチンの確保ですけれども、あらかじめある程度の数は見込みで発注はして、あとは申込み状況を見ながら追加で発注というような形になるかとは思います。国のほうでもワクチンの流通自体は、それなりに潤沢にあるものと理解しておりますので、そうやってある程度の人数が固まってから、また追加でということで対応可能かなと今のところは考えております。

村田議長 分かりました。今の説明で十分理解しました。何年か前かなのですけれども、今年でない。去年かな。道のほうに行ったときに、今のコロナのワクチンと、それからインフルエンザのワクチンの混合ワクチンが何か

1年後か2年後にできてくるという、そういう説明を受けたことがあるのですよね。患者というか、人によってはやっぱり2回打つより1回のほうがいいということもあるでしょうし、負担金の部分も高くなるのか、ちょっと分からないのですけれども、もしそこら辺の混合ワクチンの関係のことでもし分かっていることがあれば教えていただきたいのと、もしそういうものができて流通されているのであれば、両方入っているほうが、別々に打つより負担が少ないのであれば、そういうのを進めなければならないでしょうし、もしそういうことが分かっていたら、情報としてあれば、すみませんけれども、あまりこれには直接関係ないかもしれませんが、分かれば教えていただければと思います。

棟方課長 申し訳ありませんが、今のところは特段これといった情報はないような状況でございます。

平山委員 スケジュールで聞きたいのですけれども、これ何月から始まる予定。

棟方課長 病院との協議は、これからになるのであれなのですけれども、10月末辺りから3回くらいの日程を設定して実施していきたいと考えております。

平山委員 これ申込みは町のほうでしたっけ。

棟方課長 町のほうでチラシを出して申込みいただくような形を考えております。

阿部委員長 私からもちょっと聞きたいのですけれども、今回800人、令和7年度については800人を予定してということで665万の予算。令和6年度、実際接種された方というのは何名で、そのうち低所得者に関しては無料で接種できたということだけでも、その辺の内訳がもし分かれば教えてほしい。

棟方課長 低所得の方の人数、ちょっと今手持ち資料ないのですけれども、羽幌町全体で申込み者数が801人、実際に接種された方が710人ということで、申込みに対する接種率ということでいきますと88.6%というような数字になっております。

阿部委員長 今回から自己負担が上がるということで、先ほど委員のほうからありましたような内容というのは、担当課のほうとしてもこういった意見が出るだろうというのは、ある程度は予想されていたとは思いますが、やはり接種を希望する方にとっては負担も大きくなると思います。10月末からということなので、その前にはお知らせ等あるとは思いますが、しっかりと説明をしていただきながらこの接種、コロナワクチン接種については進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ほかございませんか。よろしいですか。(なし。の声) それでは、以上をもちまして文教厚生常任委員会を終了いたします。お疲れさまでした。